ある。わたしの知っている上海の中国人の母親は夫亡き後、アメリカ、オーストラリア、日本に住む子どもたちのところへ順に遊びに出かけていた。本ドラマでも、父親は次男と一時いっしょに住んだりしているし、最後は娘の明玉と暮らすことになる。この父親は、不本意な結婚をした妻の尻の下にひかれ、頭が上がらない。明玉が母親にひどい目にあっても、すぐに逃げていこうとする。中国語ではこういう人を“窩囊废”（ふがいない人間）という。しかし、一面ではしたたかで、ことある事に子どもたちに要求を出す。これを聞き入れるのが長男の明哲だ。だらしない父親にかばってもらったことがない明玉でさえ、父親になにかあると駆けつけ父親を助け、最後は認知症の症状が出た父親をひきとったりする。

○食事

ドラマでは食事の場面が多く出てくる。なにかあると「いっしょにご飯をたべよう」とか「ご馳走する（“我请你吃饭”）」という。まるで、ご飯を食べればすべてが解決するかのようだ。たしかに、これは中国人の社交術である。しかし、へたをすると矛盾を隠し、おごってもらった相手に借りをつくることになる。

食べる場面も面白い。ドラマではみんな肘をついてご飯を食べる。おかずを運ぶのにトレイを使わない。取り皿がない。おかずはそのままご飯の中に入れて食べる。自分の箸で相手の茶碗におかずを入れてやることもある。骨はテーブルの上に出す。これはきれいなお皿を汚したくないからだという。

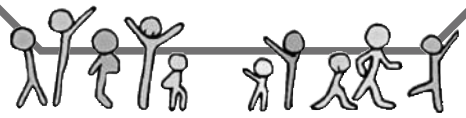
料理ではスープがよく出てくる。入院中の病人への差し入れも、ポットに入れたスープだ。これは薬膳ということでもある。

人が来ると、お茶や（外で買ってきた）コーヒーを出したりするが、親しい人どうしだと“水”（お湯）を出す。お酒は男どうしは白酒（バイチュウ）やビールで一杯やることも多いが、上品な店や家だとワイン、とりわけ赤ワイン（“紅酒”）をよく飲む。

日本でも、子どもの進学で男女を区別したり、長男が親に文句をいえなかったり、家のためということで我慢をしいられたりすることがあるが、『都挺好』にはそれが典型的に出ている。見ながら人ごととは思えなくなる人もいるのではないだろうか。

オススメ・タイ占い情報

国際コミュニケーション学部
加納　寛



占いが好きである。もっとも、占い師のもとに行ったり、分厚い教本を読んだりするようなハードな選択肢はカンベンで、神社に行ったらおみくじを引いてみるとか、雑誌についている星占いを見てみるとかいう程度である。タイでも、占いが好きな人は多い。ここでは、タイで、軽～く経験できる占いについて紹介したい。

星占い

雑誌を買って最初に見るところ、それは当然、占い欄である。自分の星座を見てみると…

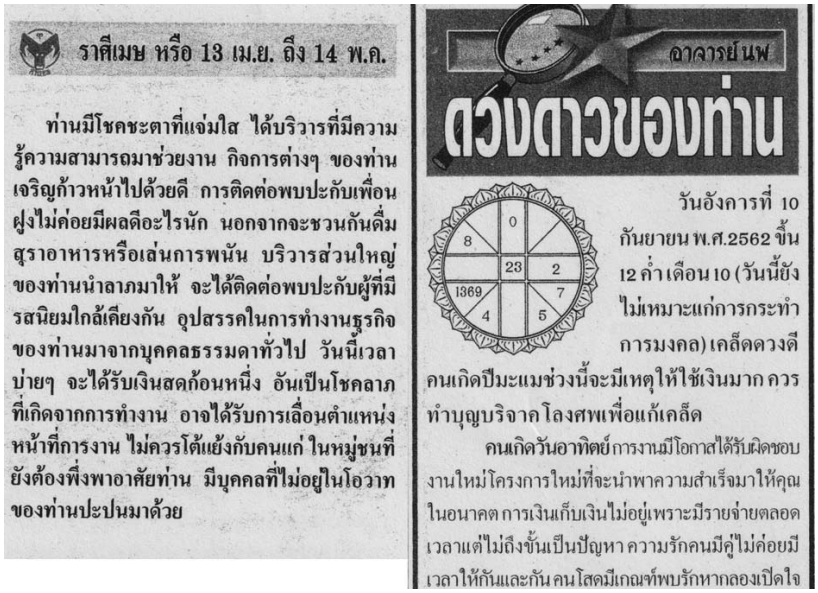
日本の雑誌に出ている星座と違う星座になっている！　タイの星占いは、インド占星術によるので、サイデリアル方式に基づいている。トロピカル方式を用いる西洋占星術（日本の星占いは基本的にこっちが多い）に比べると１か月くらいずれているので､気を付けて。図１左は、愛大の名古屋図書館３階で見られる週刊誌『マティチョン･スットサップダー（มติชนสุดสัปดาห์)』の占い欄のなかから､最初に出てくる牡羊座（４月13日～５月14日生まれ）を抜き出してみたもの。タイ語を学んでいる人は、是非、自分の運勢をタイ語で読んでほしい。もっとも、タイで発売された新刊の週刊誌が愛大に入るのは概ね１週間後なので、ちょうど終わりかけの週の運勢を読むことになるけど…

新聞の占い欄は、生まれた曜日別になっている｡タイ人は､誰でも自分が生まれた曜日を知っている｡生まれた曜日によって､カラーも決まっているし、性格も違うと信じられているから。ちなみに私は赤色大好き日曜日生まれである。子どもの頃、鼻血を出しまくっていたのは、このせいだったらしい。図１右は、愛大の名古屋図書館３階（またか！）に所蔵されている『タイラット（ไทยรัฐ)』の占い欄の一部。まずは自分が生まれた曜日をお母さんに聞いてから、図書館３階で運勢を見てみてね。愛大に入荷するタイム・ラグにより、なんと１週間前の自分の運勢を知ることができます！

おみくじ

タイの史跡・名勝・観光地の多くは、仏教寺院である。日本における観光地の目玉が城郭であることと好対照をなしているともいえるが、日本でも京都や奈良では観光地の目玉は仏教寺院なんで、その点は共通しているともいえる。

お寺に行ったら楽しみは（私の場合)、なんといってもおみくじである！　御本尊の前に跪き、日頃の行いを反省し、心に抱く願い（当然、


ราศีเมษ หรือ 13 เม.ย. ถึง 14 พ.ค.

ท่านมีโชคชะตาที่แจ่มใส ได้บริวารที่มีความรู้ความสามารถมาช่วยงาน กิจการต่างๆ ของท่านเจริญก้าวหน้าไปด้วยดี การติดต่อพบปะกับเพื่อนฝูงไม่ค่อยมีผลดีอะไรนัก นอกจากจะชวนกันดื่มสุราอาหารหรือเล่นการพนัน บริวารส่วนใหญ่ของท่านนำลาภมาให้ จะได้ติดต่อพบปะกับผู้ที่มีรสนิยมใกล้เคียงกัน อุปสรรคในการทำงานธุรกิจของท่านมาจากบุคคลธรรมดาทั่วไป วันนี้เวลาบ่ายๆ จะได้รับเงินสดก้อนหนึ่ง อันเป็นโชคลาภที่เกิดจากการทำงาน อาจได้รับการเลื่อนตำแหน่งหน้าที่การงาน ไม่ควรโต้แย้งกับคนแก่ ในหมู่ชนที่ยังต้องพึ่งพาอาศัยท่าน มีบุคคลที่ไม่อยู่ในโอวาทของท่านปะปนมาด้วย

ฉาลาย์นพ
ดวงดาวของท่าน
วันอังคารที่ 10 กันยายน พ.ศ.2562 ขึ้น 12 ค่ำ เดือน 10 (วันนี้ยังไม่เหมาะแก่การกระทำการมงคล) เคล็ดดวงดี คนเกิดปีมะแมช่วงนี้จะมีเหตุให้ใช้เงินมาก ควรทำบุญบริจาค โลงศพเพื่อแก้เคล็ด
คนเกิดวันอาทิตย์ การงานมีโอกาสได้รับผิดชอบงานใหม่โครงการใหม่ที่จะนำพาความสำเร็จมาให้คุณในอนาคต การเงินเก็บเงินไม่อยู่เพราะมีรายจ่ายตลอดเวลาแต่ไม่ถึงขั้นเป็นปัญหา ความรักคนมีคู่ไม่ค่อยมีเวลาให้กันและกัน คนโสดมีเกณฑ์พบรักหากลองเปิดใจ

図１　週刊誌と新聞の占い欄（一部）
(左はมติชนสุดสัปดาห์ **2019年９月６－12日号、右は**ไทยรัฐ **2019年９月10日号)**

図２　タイのおみくじ（左が表、右が裏）

世界平和とか、地球環境の鎮静化とか、愛大生の皆さんの幸福とかである！　その合間に、さっき買った宝くじの当選とかもちょこっとお願いする）が叶うように望んだ後、目の前に置かれたおみくじに挑むわけである。

おみくじは、まずは木の串がたくさん入った円筒（写真１の右端下）を上下に振るところから始まる。祈りながら一心に円筒を振っていると、なぜか次第に１本の串だけがせり上がってきて床に落ちる仕組みである。修行の足りないタイ初心者は、串が１本だけ出てくれず、床に散乱したり（アチャー）、いくら振っても出てこなかったりするが､心が乱れておる証拠じゃ、喝ーーーッ！　振っているのに串がせり上がってくる感覚がない場合は、薄目を開けて状況を確かめるとよいかも。この点、日本人特有の細目が役に立つ数少ない場面である（二重瞼でオメメパッチリの人は可哀想。ざまあ）。無事に串が１本だけ床に落ちたら、その串の番号を覚える。儀礼にやかましい人は、それからオモムロに目の前にある半月型の２枚の板を振って、串に書かれた数字を信じてよいかどうかを占うのだが、そこまでするかどうかは、皆さん次第である（私は､素直で面倒くさがりなので、最初に出た数字を信じる）。で、近くに置かれた棚（写真１の正面上部）から、串に書かれていた数字のおみくじを取り出し、読むわけである（図２）。その際、お布施の箱が置かれていることが多いので、心ばかりのお布施（5～20バーツくらい）はしておきたい（写真１のお姉さんは、お布施をしているところ）。肝心のおみくじの中身は、そりゃまあ

写真１　タイのおみくじをひいているところ

タイ語な訳だけど、なんのためにタイ語を学んできたんじゃい（おみくじを読むために決まっている！）ということで、がんばって読んでみましょう。なお、おみくじは、もともと中国から伝わってきたであろう由緒からして、たいていのおみくじには漢文も併記されている。タイ語が読めないという可哀想な人は漢文でがんばりましょう！　タイ語を学んだ日本人は、タイ文字も漢文もどちらも読めるから、おみくじ選手権では有利だよね！（そんな選手権、ないけども）

ということで、軽い占いはタイではいろいろと揃っているし、雑誌や新聞の星占いは愛大に居ながらにして見られるので（ちょっと古いけども）、是非、楽しんでみてください！

ミャンマー人と仏の道

経営学部　土屋　仁志

ミャンマーは世界屈指の仏教国だ。国内どこに行ってもパゴダ（仏塔）が無い場所はない。村にひょっこりたたずんでいるコンパクトなもの、険しい山のてっぺんにあってどうやって造られたのか想像をかきたてられるもの、なぜこのサイズに決まったのかと思いたくなるほど巨大な寝釈迦仏、ビルマニシキヘビが住み着いたもの、宝石がちりばめられ荘厳で黄金に輝くものなどパゴダの種類はバラエティに富む。ミャンマーの人々が仏教を体現するうえでこのパゴダはとても重要な役割をはたしている。例えば「連休はどう過ごしたか？」と聞くと「家族全員でエヤワディのパゴダにいってきた」とか「どこそこのパゴダで瞑想していた」とかいう返事が返ってくる。観光でもなく、宗教上の“義務”でもない。それは彼らミャンマー人にとって生活の一部であり、日常であり、人生の核心でもある。トラックの運転手は運転中にパゴダをみつければ、合掌して拝みたいところを我慢して、ハンドルをコントロールしながら両手の人差し指と親指を使ってパゴダ型の三角形を作り、運転の安全を確保しながらお祈りする。過去、軍事政権下で入国条件がビザの申請によって厳しく管理されていた時代でも“Meditation Visa（瞑想ビザ）”なるものが発行されおり、仏門に接しようとする外国人には寛容であった。テレビでは仏教専門のチャンネルがあったり、街なかでイヤホンをつけている人が実はMP3で高僧の説法を聞いていたりとか、ミャンマーでは仏教にかかわるエピソードは事欠かない。

ミャンマー人の信仰の深さの根本には「現世で“徳”を積まなければ来世は人間として生まれ変わることができない」という仏教の輪廻転生にまつわる教えがある。信仰を怠り、この世で悪事を働けば来世は犬や猫、虫などに生まれ変わってしまうことをとても恐れている。だから『アンタ来世、人間になれないよ』などというジョークはミャンマーでは洒落にならない。ともあれ、“徳”を積む方法はいくつかある。そのメインとなるのが“お布施”と“出家”である。まずは“お布施”。所得が多かろうが少なかろうが、給料１個月分相当の金額をお寺に